

ワニのガルド

## 友だちとぼく

2年 A・Kくん

ぼくがこの本の中で心にのこったぶぶんは、二つあります。

一つ目は、ヒナちゃんとアヤカちゃんが、ガルドとおわかれをするところです。せつかなかよくなれた友だちと二どと会えないと思つて、かなしい気もちになり、なみだが出そうになりました。

でも、はんぶんは、よかったなとあんしんした気もちもありました。ヒナちゃんとアヤカちゃんは、心のつうじ合う友だちになれて、もうさみしくないんだと思つたからです。

ぼくも、なかのいい友だちとあそんだり、わらったりしているときは、さみしくなんかありません。たのしい気もちが百パーセントです。

でも、ときどきは、友だちといっしょにいてさなみじくなることもあります。そんなときは、ガルドが空をおよいでいるかもしれませぬ。ぼくもガルドに会えたらいいなと思ひました。

二二二回ぼく、ガルドのことばです。  
「生まれてきたからには、友だちを作りなよ。だれかをまるごとすまになるんだ。」

読んだ時、「まるごとすまになる」とは、どいつのことなのか、よく分かりませんでした。でもよく考えてみたら、いいところもわるいところもすまになるというところのなかと思ひました。

ぼくには、大すきな友だちがいますが、ぼくとちがうところがたくさんあります。ぼくは本を読んだりおりがみができますが、かけっこやおにびっこがすまなお友だちがいたり、すまなたべものやすまなあそびもみんなそれぞれです。

でも、ぜんぶひつくるめて、友だちのことがすまだなと思ひます。

まるごとすまな友だちと、もっとなかよくなつてたいせつにしたいと思ひました。